

つぼみつうしん



号外
検査の解説編



〒869-1108
菊池郡菊陽町光の森3丁目17-7
Tel 096-201-8660
Fax 096-201-8661



文責:小田久美子

クレアチニン (0.4~1.1)

たんぱく質の燃えかすである老廃物で、腎臓から排出されています。値が上昇すると腎臓の働きが十分でないことを示します。

尿酸(UA) (3.0~7.0)

体内で新陳代謝によって生じる老廃物です。体内でつくられる一方で、腎臓から尿に排出され、血液中の尿酸は一定に保たれます。しかし、食事の量が多すぎたり、清涼飲料水の摂り過ぎなどで、体内でつくられる量が多すぎたり排出量が少なくなると尿酸値が高くなります。痛風発作・尿路結石・腎障害をおこしやすくなると同時に動脈硬化を進みやすくなります。

CK (30~200)

筋肉がダメージを受けたり、運動の後などに血液中に流れ出て、値が高くなります。また、コレステロールの薬の影響でも上がることがあり、筋肉痛や茶褐色尿などが見られます。

総コレステロール(TC) (150~219)

悪玉コレステロール(LDL)が高い人は、総コレステロールも高くなり、放置すると動脈硬化を招き、心筋梗塞・狭心症・脳梗塞を引き起こします。

中性脂肪(TG) (50~149)

食事から摂ったエネルギーが使いきれずに余ると中性脂肪になり、動脈硬化を招きます。食事の摂りすぎや甘いもの、清涼飲料水・アルコールの摂り過ぎで高くなります。

善玉コレステロール(HDL-C) (36~69)

細胞にたまったコレステロールを肝臓に戻し、動脈硬化を予防します。運動不足により、値が低くなります。

悪玉コレステロール(LDL-C) (70~139)

動脈硬化を進行させます。値が低くても、高血圧や喫煙する人では注意が必要です。

血糖値(グルコース) (70~110)

通常、食事10時間以上経過した空腹時血糖を指します。食事時間に関係なく行われた血液検査で調べた随時血糖とは異なります。

ヘモグロビンA1C(HbA1C) (4.3~5.5)

赤血球中のヘモグロビンの中にはブドウ糖と結合したものがあり、グリコヘモグロビンと呼ばれます。1日の血糖値の平均が高いほど増えるので、“血糖コントロールの指標”となります。いったんヘモグロビンに結合すると、赤血球の寿命が尽きるまで付いているので、1~2ヶ月の血糖の状態がわかります。

肝機能 (GOT・GPT)

肝臓に含まれる酵素で、肝細胞のダメージで血中に増加します。GPTは主に慢性肝炎・肥満・脂肪肝などで増加し、GOTはそれ以外にも、心筋の病気・骨の病気でも上昇します。

血清電解質 (Na・K・Cl)

血液の液体成分である血清に含まれている「ナトリウム・カリウム・クロール」です。含まれる量はわずかですが、生命活動をスムーズに行うために重要で、調節能力や食品からの摂取状況腎臓からの排出障害などで異常が現れます。ナトリウムとクロールは一緒に存在し、水分不足などで高くなり、嘔吐などで低くなります。カリウムは筋肉の収縮に関係し、野菜や果物の摂取不足で低くなります。

以上は生化学的検査と呼ばれ、病気を早く見つけて治療したり、適正值にコントロールすることで動脈硬化を予防することができます。すべて生活習慣病にかかわります。食事療法・運動療法でコントロールが難しい場合は、お薬の力も借りることが必要です。加齢による動脈硬化を避けることは困難ですが、適切な生活習慣や治療を継続することが大切です。

悪玉コレステロールの算出式

$$\left[\begin{array}{l} \text{LDL} \\ \text{コレステロール} \end{array} \right] = [\text{TC}] - [\text{HDL}] - \left[\frac{\text{TG}}{5} \right]$$

※ただし式が使えるのはTGが400未満の場合のみ

つぼみ
調剤
薬局